

まちづくり

メールニュース

Vol. 236

(H27. 9. 29)

北海道開発局都市住宅課
まちづくり相談窓口

今号の
記事

- 岩見沢地区汚泥利用組合が国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」を受賞
- 寄稿 伊達駅前地区の快適生活空間づくり
- 空き家バンクサミット2015 in 北海道を開催します

各項目の○を
クリックすると
各項目見出しに
ジャンプします

まちづくりに関して紹介したい地域の取組、配信アドレスの変更等については、
まちづくり相談窓口(メールはこちら)まで

※配信希望は随時受け付けております。

岩見沢地区汚泥利用組合が 国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」を受賞

国土交通省は、下水道事業における持続的発展が可能な社会の構築に貢献する優れた取り組みを表彰する「循環のみち下水道賞」を選定し、道内からは唯一、地元の農家で構成される「岩見沢地区汚泥利用組合」の取り組みが同賞の「ネクサス部門」を受賞しました。

受賞は、グランプリの他、6つの部門に分け、全国で12団体を選定。9月10日の下水道の日に合わせ、東京都内で表彰式が執り行われました。

(表彰式・全国の受賞団体の紹介については、[国土交通省 HP](#)をご覧ください。)



北川副大臣から峯組合長へ表彰状が授与



司会進行役のミス日本「水の天使」柴田美奈さんと記念写真

「循環のみち下水道賞」は、下水道の使命を果たし、社会に貢献した好事例を表彰する国土交通大臣賞として平成20年度から毎年表彰を行っているものです。優れた取り組みを広く発信することで、受賞者の功績を称えるとともに、他の多くの団体等が同様の取り組みを行い、持続的発展が可能な社会の構築に貢献する「循環のみち下水道」の実現を全国的に図ることを目的としています。

～岩見沢地区汚泥利用組合の取り組み～

「岩見沢地区汚泥利用組合」は、岩見沢市と連携し、南光園処理場で発生する下水汚泥を再利用した「下水道資源循環型の農業」に取り組んでいます。

この取り組みは、これまで費用を掛けて処分していた下水汚泥の中に、有機物や窒素・リンなど、作物づくりに必要な資源が集約されていることに着目し、組合員自らが収量と品質を向上させるための研究を行いました。その結果、一般的には困難とされる稲作用の肥料と

しての利用方法を関係機関と連携して確立し、仲間に普及することで、利用者数も増加。平成26年度には、その2年前と比較し、組合員が約1.5倍の73名、利用者が2.5倍の38件となりました

これにより、道産のブランド米「ゆめぴりか」等の生産のため、発生した下水汚泥を余すことなく、全て地元農地に還元できるようになりました。

また、下水道資源を農業に利用して「食」と「下水道」の連携を強化する全国的な取組「BISTRO（ピストロ）下水道」にも参加し、先進事例を情報発信することで、下水道資源の普及啓発に努めました。（「BISTRO 下水道」の取り組みは、[まちづくりメールニュース vol.227](#) 参照）

この下水道汚泥堆肥を利用した土づくりを行うことにより、地力を向上させ、収穫量の向上とともに、タンパク質含有率が低く美味しい米が生産できるようになりました。また、化学肥料や農薬を減らすことも可能となり、農作物の生産コストも縮減。消費者としても安全安心な地元の美味しい農作物を食べることができます。

さらには、行政としても、公共下水処理場で発生していた下水汚泥の処分費用を約1千6百万円縮減することができ、下水道資源を有効利用した循環型の社会構造が形成されています。



Key Person



岩見沢地区
汚泥利用組合長
峯 淳一

この取り組みを通じて、下水汚泥肥料などの有機物を用いて農作物を生産する仲間が増えて、環境保全型農業の力強いエネルギーになっています。

組合員の後継者が積極的に取り組みに参加し始め、次世代への継続の期待が持てるようになってきました。

下水汚泥肥料に対する誤解から、消費者が離れたことがありましたが、これからも農作物の品質と安全性をPRし続けて、国民の正しい理解の下、競争力がある農作物を国内・海外に売り出していくことが、必要だと考えています。

=寄稿= 伊達駅前地区の快適生活空間づくり ～市街地再開発による駅前活性化とまちなか居住～



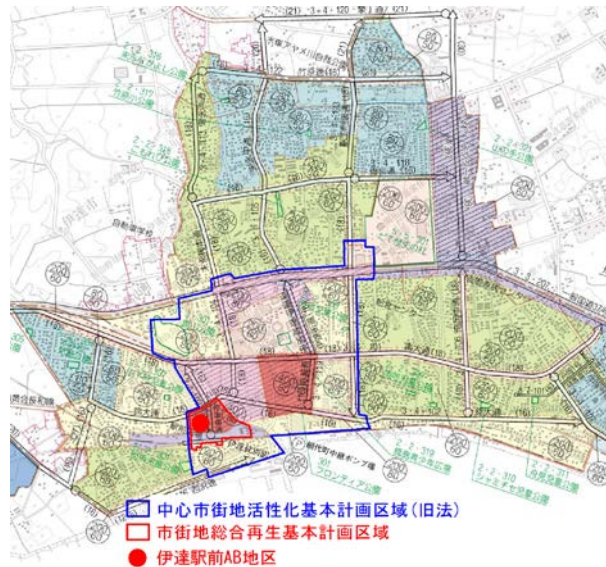
伊達市

伊達市は、北海道中央南西部、道都札幌市と函館市の間に位置し、南は噴火湾に面し、東は室蘭市や登別市、北西には有珠山、昭和新山を挟んで洞爺湖町に隣接し、壮瞥町を挟んで大滝区（旧大滝村）となっています。

人口動態は、周辺市町村からの流入に加えて、恵まれた気候風土から、道内外各地から移住する方が多い一方、急速に進展する少子高齢化や、若年層の大都市圏等への人口流出により、昭和60年以降ほぼ横ばいで推移していましたが、現在では減少傾向にあります。

伊達市の中心市街地は、まちのほぼ中央部から噴火湾沿いに南北に広がっており、官公署や金融機関、さらには多くの商店街が集積した経済の中心的役割を担う地域です。特に、伊達駅前地区は、鉄道やバスなど交通の要所として、古くから商業を中心に栄えてきましたが、相次ぐ大型店の出店や車社会の定着による生活様式の変化から、購買力の流出による商店街の衰退が進み、空き店舗や老朽建築物が目立つ状況となってきました。

また、若年層は郊外に宅地を求める傾向が強く、中心市街地の急速な高齢化の進展により、商業地域としてのまちの賑わいが失われつつある状況でした。



■ 中心市街地活性化基本計画区域(旧法)
■ 市街地総合再生基本計画区域
● 伊達駅前AB地区



策定委員会の様子

伊達市では、中心市街地の空洞化や進む高齢化社会への対応策として、生活利便施設が集中する「まちなか居住」を推進し、居住人口の増加によるまちの活性化を目指して、地域住民や地元商店街、商工会議所、北海道や学識経験者の方々の協力をいただきながら、「快適生活空間づくり」をコンセプトとした「伊達市市街地総合再生基本計画」を平成21年に策定し、第一種市街地再開発事業を活用したまちのリニューアルに向けて動き出しました。

この事業では、地区内権利者自ら事業者となる個人施行を採用し、実際の事業施行は事業遂行能力と資金調達能力に優れた開発事業者をプロポーザル方式により選出し、委任する方式をとりました。

平成24年11月、アルファコート伊達駅前AB地区開発株式が、北海道知事の施行の認可を受けて事業が本格的にスタートしました。



(事業前) 老朽化した建物が密集



土地建物等の所有者をB地区に移転し、A地区に新たな住宅を整備（完成イメージ図）

店舗や住宅の集約化により生まれた空間には、新たに共同住宅や店舗を整備し、共同住宅は市営住宅として伊達市が取得、店舗については伊達駅前商店街振興組合を中心に設立した伊達駅前まちづくり(株)が取得し、貸店舗事業のほか、地域活性化のための各種事業を実施しています。

市営住宅には、L S A（生活援助員）による生活相談や安否確認、緊急通報システム等を備えたシルバーハウジングを整備し、高齢者や子育て世代が生活しやすい利便性の高い住環境が生まれました。

また、貸店舗は小さな規模とし、新たに事業を始める方が出店しやすい環境を提供することで、商店街としての機能も確保しました。

【事業の概要】

- ・事業期間：平成23～25年度
- ・施行者：個人
- ・所在地：伊達市山下町
- ・地区面積：5,745.8㎡
- ・敷地面積：3,768.12㎡
- ・建築面積：1,512.01㎡
- ・延床面積：4,747.26㎡
- ・用途：A地区 市営住宅
B地区 住宅、飲食・小売、美容室、事務所 など
- ・階数等：A地区 RC造、地上5階建
B地区 RC造、地上3階建
S造、地上平屋建
- ・権利変換方式：全員同意型（110条）

【事業費内訳】

・総事業費：1,493百万円

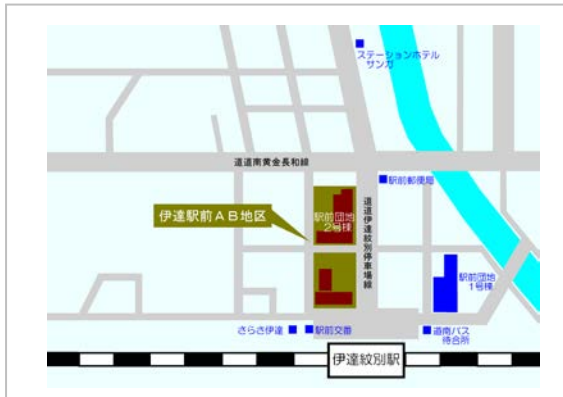
（財源内訳
補助金：334百万円（国、市）
保留床処分量：1,159百万円）



（左）まちづくり(株)の貸店舗、（右）権利者の店舗・住宅



駅前広場から撮影（奥側が公営住宅5階建42戸）



寄稿者：伊達市建設部都市住宅課都市計画係

空き家バンクサミット を開催します！

2015 in北海道

後志地域で活動している「しりべし空き家BANK協議会」と北海道後志総合振興局は、11月12日と13日に倶知安町内で、全国の「空き家バンク」の取り組みを行う団体が集まり、講演やパネルディスカッションなどを通じて、空き家の活用とまちづくりについて考える「空き家バンクサミット 2015 in 北海道」を開催します。

このサミットは、空き家の活用に係わる人々が一同に集まり、他のまち・地域の取り組みや工夫に触れることで、それを自らのまちづくりに活かすとともに、空き家バンクの知名度を社会により広め利用者を増やし、空き家を活用したまちづくりや地域おこしを一層盛り上げることを目的としています。

プログラム1日目は講演・パネルディスカッションのほか、ポスターセッションも行われ、会場に、各地の空き家バンクや自治体などが空き家の活用やまちづくり、移住定住などの活動をパネル展示します。

プログラム2日目は、「エクスカーション 空き家のつかいかたを観るツアー」とし、バスで倶知安・ニセコ地域の空き家や空き施設の活用事例を巡ります。

参加は、誰でも可能で、交流会を除き無料。あわせてポスター出展者も募集しています。申込み等の詳細は[北海道後志振興局HP](#)をご覧ください。

プログラム1日目：平成27年11月12日（木）13：10～17：45

会場 北海道後志総合振興局（倶知安町北1条東2丁目）

- 講演 NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト（広島県尾道市）・・・HPは[こちら](#)
- NPO 法人空き家コンシェルジュ（奈良県）・・・HPは[こちら](#)
- NPO 法人つるおかランド・バンク（山形県鶴岡市）・・・HPは[こちら](#)
- しりべし空き家BANK（北海道後志地域）・・・HPは[こちら](#)

- ポスターセッション「うちの空き家のつかいかた」
全国から空き家のつかいかたについてのアイデアが大集合。
テーマ「うちの空き家のつかいかた」

- パネルディスカッション

講演団体の各代表がパネラーとなり、空き家の活用やまちづくりについて考えます

- 交流会（参加費別途）19：00～

プログラム2日目：平成27年11月13日（金）9：00～12：00

- エクスカーション

倶知安・ニセコ地域の空き家活用事例を巡ります（予約先着順・定員50名）

